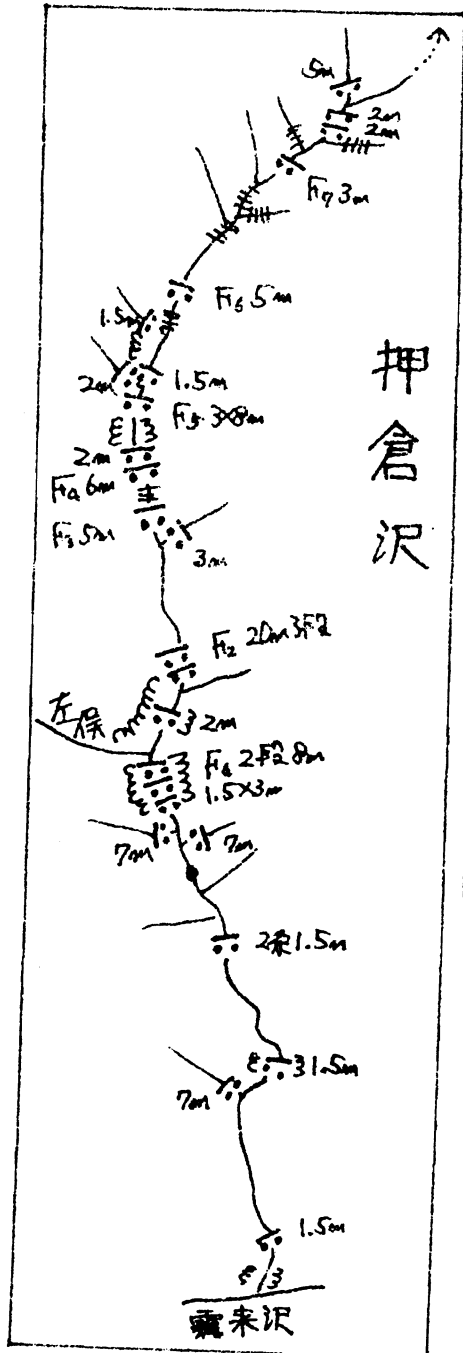


まで続く。アブがうるさくつきまとうので、一気にかけ下る。  
 [タイム] 下降点(11:55)→左俣本流(13:00)→右俣出合(15:10)→霧来沢出合(16:05)



## 押倉沢

### 押倉沢右俣

1986年8月23日

1

霧来沢との出合はせまく小さなナメがあり、期待のもてる沢だ。F<sub>1</sub>までの間に1~2mの小滝が4つほどある。F<sub>1</sub>を過ぎた所が二俣。右俣に入る。

右俣に入ると、すぐF<sub>2</sub>へ着く。F<sub>2</sub>は下から1m, 10m, 8mの3段の滝となっている。中段の滝を右より捲きぎみに登り、上段は左に移って直登する。このあと沢は滝とナメが続く。F<sub>6</sub>では、左側に取り付くが、登れなくて、右側を一部チムニー登りして越える。F<sub>3</sub>からF<sub>6</sub>の間は、この沢でもっとも楽しいところだ。

F<sub>7</sub>を越えると、水量が減ってくる。ヤブこぎ20分で、吉三山から三条方面にのびる尾根に出る。

(記)

[タイム] 押倉沢出合(7:40)→二俣(8:40)→遡行終了(10:40)→尾根(11:00)

## 6. 摺上川流域の沢

### 中津川左俣

1986年8月3日

I

朝、和泉さん宅によってから出発。中津川

林道に車を進めるが、林道の終点近くで、法面が崩壊して先に進めず、バックしてスペースのある所に駐車。その後、中津川に下降する。

中津川左俣の出合に行くとき、すぐ滝があり、ゴルジュを形成している。滝の中には直登できないものもあるが、滝のすぐわきを木の枝を利用して登ることができる。

ゴルジュを過ぎると、沢は明るくなる。そして沢の中は、倒木というより、伐採した時の残材が沢をうめつくして、歩きにくい。

沢に入って約一時間。西さん達が下降に使った右支沢との分岐となる。見逃してしまいそうな小さな沢である。

さらに進むと二俣。右沢の方がいくらか水量が多い。左沢へ歩を進める。

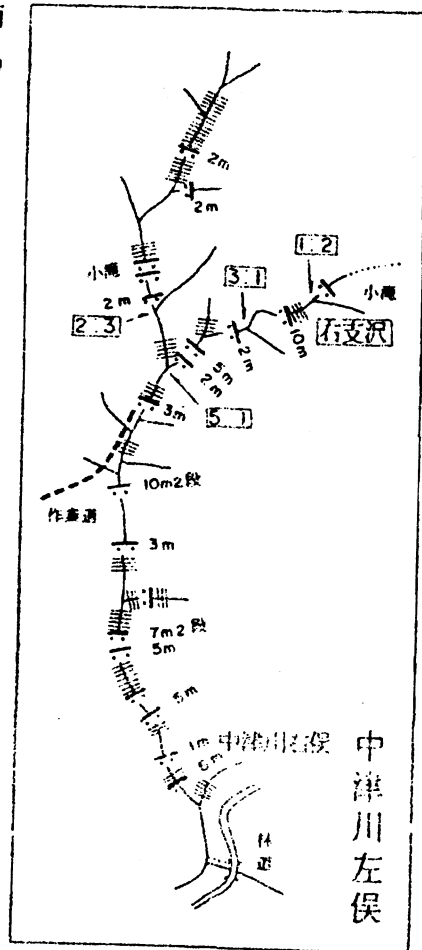
左沢に入ると、小滝がポツリ、ポツリとあるが、なんといっても、ナメ、ナメの連続である。いずれも花崗岩の風化したナメ床である。所々、流水の侵食作用により、花崗岩がトイ状にえぐられている箇所がある。

左沢に入って40分、傾斜もきつくなり、ヤブもかぶさってきた。源頭のようなところ。遡行終了として、引き返すことにする。

この沢は、中間点あたりまで伐採され、おまけに沢は木で埋まっており、歩きにくい沢であった。

(記)

[タイム] 左俣出合(9:20)→右沢分岐(10:15)→終了(10:45)



### ワサビ沢右俣

1986年8月25日

L:

12時30分、右俣の下降を開始する。この沢もやはりナメである。黒みを帯びた花崗岩で、ちょっと硬質。このナメはほとんど途切れることなく続き、途中にポツリポツリとナメ状の滝がある。

桶りの時間が気になるので、どんどんとばす。特記することもなく、なんなく